

三原市議会議員

まさとき

とくしげ政時



活動報告

平成 26 年 12 月議会報告号 (第 2 号)

この冬の訪れは例年に比べて早いうえ、寒さも一段と厳しいものとなっております。皆さまにおかれましては、平成 27 年の年明けをいかがお過ごしでしょうか。さて、終わったばかりの平成 26 年 12 月議会の一般質問を中心にまとめた活動報告の第 2 号を発行いたしました。今議会では、「三原市を元気にする」とのテーマを掲げた質問を致しましたので、詳細な質疑の内容をご覧ください。また、皆さまからも三原を元気にするアイデアや、ご意見などがございましたら、お気軽にお聞かせください。今後の議員活動の参考にさせていただきます。

平成 26 年 12 月議会では、所属する厚生文教委員会に加え、一般質問を行いました。

一般質問

今議会の一般質問では、以下の 3 点について質問いたしました。

- 1 中央森林公園のサイクリングコースでの、ロードレースの実施について
 - 2 すなみ海浜公園を観光の拠点にしては
 - 3 中山間地域の活性化と児童の体験活動プロジェクトについて
- これより、順を追って質疑の概要を紹介します。

1 中央森林公園のサイクリングコースでの、ロードレースの実施について

県立中央森林公園は、年間 30 万人以上の人が出る。新たに、ファミリーコースや健脚コースを使用するの、コスプレ・仮装でのロードレースの開催を提案する。

(1) 本年の 4 月 20 日から 11 月 23 日の間、中央森林公園のサイクリングコースで 15 回の大会が開催されているが、選手・観客・その他を含む総参加者数は、

答弁者…亀本健介 観光振興担当参事

合計 4850 人。最多参加人数 1500 人、最少は 100 人、1 回当たり平均で 323 人。

(2) 今や、コスプレ・仮装大会は尾道市の一大イベントとの一つ。先行の尾道市にタイアップをお願いし、コラボレートできれば、提案したロードレ

ースも盛り上がること間違いなしと思うが。

答弁者…亀本健介 観光振興担当参事

コスプレは観光イベントとしても世界的に人気で、本市においても広島空港ビルディングがイベントを実施し、多数の参加者を得ている。平成 22 年以来、大規模なコスプレイベントを開催した実績がある尾道市とは、「るるぶ FREE 三原・尾道」の発刊により、一体の観光地としての連携を進めているので、今後、協議したい。

2 すなみ海浜公園を観光の拠点にしては

(1) すなみ海浜公園は、この地域から見えるしまた美しい風景を乗客に堪能してもらおうため、JR 呉線が徐行運転をしている。また、頻繁にテレビでも取り上げられている「みはらし温泉」がある。更に、三原市が整備した「すなみ海浜公園」も隣接している。既に、これだけの条件が揃っている一帯である以上、適切な対応を取れば、三原市の海辺の一大観光拠点として売り出すことが可能ではないかと考えた。そこで、同地域における一大観光拠点となりうる潜在能力が、現状ではほとんど発揮されていない理由を考えてみたところ、アクセス方法が車に限られているに等しいことに行き当たった。そこで同地域へのアクセスを抜本的な改善が必要と考えた。

以前、みはらし温泉さんから資金の提供や駐車場の一部を乗降客用の通路として使用してもらっても構わないとの申し出があり、新駅を設置する構想があった。そこで、当地域に新駅を設置し、駅名を「すなみ海浜公園駅」もしくは「みはらし

温泉駅」とすれば、その名前で同地域一帯が観光拠点であることを全国にアピールすることができると考える。

新駅建設に関し、再度ご検討の余地はあるか。

答弁者…山口秀充 経済部長

すなみ海浜公園付近における JR 駅の新設については、平成 18 年 10 月に地元町内会・企業からすなみ新駅の設置についての要望書が提出され、平成 19 年 12 月には、地元関係者に加え三原商工会議所、三原観光協会、本市などで構成する「JR 呉線すなみ新駅設置推進準備会」を設立し、JR 西日本三原鉄道事業部、JR 西日本広島支社と新駅設置の方策等についての協議や要望を進め、平成 20 年 3 月に「JR 呉線須波新駅基本構想」を作成した。

現在も新駅設置の要望は継続しているが、基本構想にも示しているように、8 両編成の旅客者が停車するための長大なプラットフォームや駅舎の建設、駅前広場等の用地取得を含む建設資金が全額地元負担になること、将来にわたって維持管理や更新費用を駅利用者からの収入で賄う事業の採算性が確保できないなど多くの課題があり、新駅設置への取組は進捗していない。まずは JR 呉線及び山陽本線の観光周遊などを推進し、新駅設置の可能性を探りたい。

(2) みはらし温泉さんにご協力いただき、すなみ海浜公園に無料の足湯を造り、「風光明媚な瀬戸内のしまなみの眺望を満喫しながら足湯に入れる海浜公園」として売り出してみようか。

答弁者…山口秀充 経済部長

足湯については、すなみ海浜公園の魅力向上策の一つではあるが、新たな設備投資や設置後の衛生面などを含む維持管理など課題も多いと考えている。

(3) 多額の税金を投入して整備された海浜公園の実質的な稼働時期が海水浴シーズンの約 1 月半だけではもったいなさ過ぎる。漁協などの協議も必要だが、すなみ海浜公園の沖合に漁礁を沈め、海水浴シーズン以外を、温泉もあり家族で釣りを楽しめる「海釣り公園」として広く観光客を呼び込んでみようか。一年を通して釣り人の姿の絶えない須波港沖へ漁礁を沈めることも一考に値すると思うが、どうお考えか。

答弁者…山口秀充 経済部長

すなみ海浜公園付近の現況は、海域が定期航路であることに加え、一般のレジャー船が数多く往來している。また、陸上の堤防付近は、公園利用者が散歩やウォーキング等に利用するコースとなっていることから、「海釣り公園」として整備するには、投げ釣り等に起因する周囲の歩行者や自動車、航行する船舶などへの影響も含めた対策を講じる必要がある。周辺海域への漁礁の設置については、具体的な設置場所等の検討や協議等の課題もあるが、市が事業主体となれば設置が可能である。関係機関と連携しながら慎重に検討を進める。

(4) この度、事情によりカキ小屋さんが、糸崎から駅前ひろばに移られた。今後は、場所をすなみ海浜公園に移しての営業は可能か。また、カキシーズンの平日の利用促進を図るため、みはらし温泉

とカキ小屋などを楽しめる日帰りバスツアーとして、旅行代理店に売り込んでみようか。夏場には、食事会場を海浜公園内にあるレストラン「ゾーナ・フォルトウナート」に移せば、温泉と季節の食事を 1 年を通して楽しめるバスツアーのコースとしてお客様を呼び込めると考えられるうえ、レストラン「ゾーナ・フォルトウナート」の稼働率アップも図れないか。また、カキシーズン以外には、カキ小屋をバーベキュー小屋として通年営業すれば、カキ小屋もしくはバーベキュー小屋に寄られたお客様がみはらし温泉を利用されることもあれば、その逆もあり、更なる相乗効果が見込めないか。しまなみの風景、みはらし温泉、海浜公園の既存の観光資源に、カキ小屋・バーベキュー小屋、レストランが加われば広範囲からの集客と大幅な観光客の増加が見込まれると思うが、どうか。

答弁者…山口秀充 経済部長

カキ小屋については、現在地に移転する際、すなみ海浜公園も候補地の一つとして見当されたが、立地条件などの課題があったと聞いている。現在地での営業は暫定的なものであり、再度、移転先の選定が必要。すなみ海浜公園一帯の活性化については、一年を通じた活用が図られることが望ましい。他の類似施設での成功事例なども参考に、指定管理者である三原観光協会や地元業者などと連携し、集客力の向上に取り組みたい。

(5) 須波港および「すなみ海浜公園」と国道の間は隙間なく生垣で隔てられており、美しい「しまなみ」の風景も、車からは見ることができない。ま

た、死角ができてしまうことは防犯上も不適切であるとの声もある。遠方からのお客様からは、案内看板がなく、場所が分かり難いとの指摘もある。不必要な樹木の伐採と大きく表示された案内看板の設置を強く要望する。

答弁者…山口秀充 経済部長

海水浴で利用される方のプライバシー保護対策も兼ねて生垣を設置し、休憩場所に設置している藤棚とあわせ、樹木による調和が図られるような設計としている。植栽の管理については、景観との調和、防犯面での安全対策を考慮し、適切な管理に努める。

案内看板の設置については、平成26年3月に「三原市観光案内看板設置計画」を策定した。看板設置が必要な箇所に優先順位を付けて計画的に整備したい。

3 中山間地域の活性化と児童の体験活動プロジェクトについて

(1) 平成25年3月をもって閉校となった11の小学校の活用状況と、今後の見通しはどうなっているか。

答弁者…窪田弘武 総務企画部長

閉校後の活用状況についての内訳は、
 ☆ 小坂小学校…平成25年4月から沼北小学校として活用中

☆ 久井南小学校…本年4月から久井認定こども園として活用中

☆ 和木小学校…「地域交流センター」として活用中

☆ 神田小学校…企業へ貸付中

☆ 高坂小学校…高坂町コミュニティホームを移設するため改修工事中。来年3月末の完成予定

☆ 八幡小学校…八幡町コミュニティホームを移設する方針を決め、協議が進行中

☆ 大草小学校…民間企業への売却に向けて調整中

☆ 羽和泉小学校、神田東小学校…民間活用に向けた公募の準備を進行予定

☆ 椋梨小学校…地域での活用について検討中

(2) 大和町において、こころある有志の方々により、日常生活とは異なる環境で小学生が自然と親しみ、地域の人たちとの交流や労働の実体験をするための、「(仮称)三原市大和町農山村体験推進協議会」の設立が図られている。これは民泊・宿泊施設を提供すると同時に、地域の活性化も図りたいとの熱い思いによる。本市としては初めての事例であるが、県内では既に「子ども農山漁村交流プロジェクト」として4市3町で実践されている。本プロジェクトに対するご所見は。

答弁者…窪田弘武 総務企画部長

子供たちの豊かな人間性や社会性を育むためには、自然や社会に接する学校外での体験活動が大切である。大和地域における民泊や労働体験を通じた学びの場づくりは、体験活動の活発化という教育面の成果が期待できるうえ、中山間地域の活性化に寄与できる望ましい取組と受け止める。

(3) 既に、「大和町農山村生活体験ホームステイ」を受諾されている方が34軒ある。また、体験施設からも数カ所の承諾を得て、今後も法人・個人宛に協力を要請することである。来年の秋には、3泊4日で23名、2泊3日で20名の小学5

年生の児童たちの大和町での体験活動が決まっているとのこと。行政として、ホームステイの受け入れに対する安全・衛生管理等の基準やその他、規制に関する指導や支援をなされることと思う。本事業に対する積極的な支援策をどのようにお考えか。

答弁者…窪田弘武 総務企画部長

体験活動および民泊を提供する「生活体験ホームステイ」に取り組みにあたっては、安全の確保が第一と考える。利用者の安全が確保され、安心して体験活動などに参加していただくには、民泊の受け入れ家庭や体験活動の受け入れ施設の安全や衛生管理に対する正しい認識が求められるだけでなく、民泊や体験活動の目的や基本的な考え方を関係者全員が共通認識として持つことも重要である。県が策定した「農山漁村生活体験ホームステイ実施に係る取り扱い指針」においても、安全衛生に関する講習会等の実施が定められている。本市としては、消防署員による救急救命講習等の人的支援や生活体験ホームステイの実施についてのPR活動などを支援したい。県の指導で、外部の専門家による基本理念に関する講習会の開催が必要であるため、活動に賛同する市民を対象に実施する講習会などへの支援も検討する。

(4) 子どもの豊かな心を育てる「山・海・島」体験活動「ひろしま全県展開プロジェクト」とは、どのような内容か。

答弁者…清川浩三 教育部長

「山・海・島」体験活動「ひろしま全県展開プロジェクト」は、児童の自立性や主体性・コミュ

ニケーション能力等の育成を目的に、主に小学校第5学年を対象とした3泊4日の集団宿泊活動を、平成28年度に県内全ての小学校が実施することをめざし、県教育委員会が行っている補助金事業である。

(5) 同プロジェクトの支援制度が平成28年度で終了と聞いている。本市として、県に代わる支援策をお願したいが。

答弁者：清川浩三 教育部長

実施校の児童一人当たり、施設利用の場合は4千円、民泊利用の場合は1万円が上限として補助される。県による補助終了後の支援策については、来年度、より効果的な事業のあり方、市の支援を具体的に検討する。

一般質問を終えて

平成29年の三原城築城450年に向け、天満市長は観光に力を入れておられます。そこで、観光に関する2点の提案を致しました。

1点目は、中央森林公園のサイクリングコースを利用している、仮装やコスプレをしてのロードレースの開催です。ちなみに、仮装やコスプレでのサイクルロードレースの成功例としては、F1でも使用される富士スピードウェイで開催される、「スーパーママチャリグランプリ」が挙げられます。このイベントでは、参加者だけで、1回1万人以上の参加者があります。また、その前哨戦として本年4月と9月に開催された「ママチャリグランプリ」も大盛況であったとのこと。全国各地で開催されているコスプレ大会は大盛況で、桁外れの集客力を誇ります。全国的にも知名度の高い

臨空コース、河内および本郷インターチェンジからのアクセス至便なコースでのレース開催は、三原市をアピールするには絶好のイベントの一つとして注目されると思います。

2点目として、みはらし温泉を中核に、すなみ海浜公園周辺を、三原市の海辺の一大観光拠点として売り出すことも提案致しました。具体的な内容は、アクセス方法改善のための新駅の設置、みはらし温泉さんのご協力を仰いで足の湯の設置、海水浴シーズン以外は海釣り公園として利用するよう整備すること、カキ小屋の移設やバスツアーの誘致などです。

また、「(仮称)三原市大和町農山村体験推進協議会」を中心とした大和町のところある方々が、中山間地域の活性化とともに、次世代を担う大切な宝である子供たちのために「児童の体験活動プロジェクト」を実施しようとして立ち上がったことについても質問いたしました。たとえ数日間とは言え、小学生時代の非日常的な体験は、大人になっても心や記憶に残り続けます。子供たちの心の荒廃が叫ばれて久しい昨今ではありますが、「体験活動プロジェクト」によって大和町のところある皆さまが受け入れた子供たちの心は、触れ合った方々の優しい心できっと潤い続け、更に次の世代へと時空を越えて受け継がれていくことでしょう。大和町民の皆さまが「体験活動プロジェクト」に対して精一杯の努力をされていますので、私からも行政に対し、継続して支援を強く要望していきます。

※ 紙幅の都合上、厚生文教委員会の審議に関しては、次号でお伝えいたします。

編集後記

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と申します。時の流れをたどえた言葉であります。残念ながら本市では、進学や就職で多くの若者が三原を去る時期でもあります。一度は三原を去った若者が、一人でも多く故郷に帰って来て暮らせるよう、より以上に、雇用の場の確保に邁進してまいります。また、嬉しいお知らせがあります。4月11日の土曜日に、「白竜湖花火 in だいわ」が開催されることとが正式に決まりました。桜花爛漫の「夜桜花火大会」です。合併と同時になくなった「白竜湖花火まつり」が“大和町を元気にしよう”と天満市長の掛け声で、復活ののろしを挙げることになりました。皆さまのご支援ご協力で、成功させましょう。

～ とくしげ政時 後援会入会の御案内 ～

後援会規約

1. この会は「とくしげ政時後援会」と称します。
2. この会は、とくしげ政時の政治活動を支援し、合わせて、会員相互の親睦と協力を促進することを目的とします。
3. この会は目的達成のため、研修会・後援会・出版物の発行などの活動を行います。
4. この会に必要な経費は、会費・寄付金などの収入によってまかさないです。

連絡先

電話番号：0848-62-5804 (ファックス兼)